

# ゼラニウム・ルキドゥム

*Geranium lucidum*

フウロソウ科

## 特徴(見分け方)

- 丈の低い一年草で、花は短い茎の上に対になって育ち、極小さなピンク色の5枚の花弁を持つ。
- 葉には光沢があり、形は丸、または腎臓形で、5~7裂を持つ。
- 竜骨のついた萼片を持つ。
- 茎は赤系色で、滑らか(無毛)、20インチの高さまで伸びる。
- 種は先のとがった細長い「ツルのくちばし」のような鞘で育つ。

## 生態

種によって繁殖する。種が熟すと力強く飛ばされ、親木から離れて拡散される。この植物が、木の幹の割れ目や、丘の斜面の上の方まで広がっているのはこのためであろう。通常、一年草として成長するが、2年生きる場合もある。開花の時期は4月から7月。種の成熟と拡散は6月の下旬から7月の月上旬。種の発芽は主に夏の終わりから初春であるが、年中数回の発芽も可能。

## 影響

質の良い森や草原の原種植物環境に侵入し、圧倒することがある。種によっては素早く広がり、密生地を作り、ほかの植物を締め出す。苗木に混入し、誤って庭や環境復興対象地に植えられてしまう可能性もある。

## 地域

ヨーロッパ、アジアから侵入した雑草である。北米パシフィック・ノースウエスト地方では、オレゴン州のウィラメット・バレーとポートランド市近辺に最も多い。西ワシントン州の多くの郡でも発見されることが増えている。キング郡では、都会や地方の両方で、庭、森林地帯や道端に見られ、管理された庭から広まっている。

## 対応

個人所有地においては、除草をし、この植物がはびこっている土地に入った人の長靴や、車両、動物を洗浄すること。植えの苗木を、植える前と後に徹底的に調べ、この有害雑草の拡散を防ぐこと。キング郡有害雑草防除プログラムはゼラニウム・ルキドゥムのキング郡での拡散防除に積極的に取り組んでいる。発見したら通報してください。

## 防除方法

侵入程度や場所に応じて、下記の方法、及びそれらの組み合わせを使って下さい。状況に即して対応し、防除手段を複数の成長期にわたって継続すること。長期的で有効な防除展開のコツは、種ができるのを防ぐことと、競争する他の植物を植えることにある。

B級有害雑草  
防除の義務付け。



Ben Legler撮影の写真

極小さなピンクの一对の花、「竜骨」の付いた翼のある萼片、光沢のある、丸い、浅裂の葉を探してください。



丈が低く、他の植物を圧倒して蔓延る一年草で、苗木やマルチ材の混入物として広がる。



Bruce Newhouse撮影の写真

茎は多くの場合鮮紅色で、緑色の場合もある。茎に毛は無い。

不明点、ご質問などは:

キング郡有害雑草防除プログラム: 206-477-WEED

[kingcounty.gov/weeds](http://kingcounty.gov/weeds)

## 手作業および機械による方法

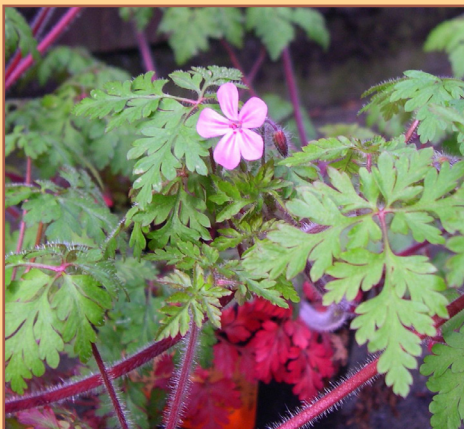
種ができる前に、手で引っ張ったり掘ったりして抜く。再発芽を防ぐため、できるだけ多くの根と茎を慎重に排除すること。草刈機で刈ると更に広がる可能性があるため、使用しないこと。侵入された場所に段ボールを被せ、その上にマルチを置き、複数の成長期を通して芽が出なくなるまで覆っておくことで、効果的な除草ができる。

## 薬品による方法

密生している場所では、除草剤の使用がより実用的になる場合がある。**除草剤は、必ずラベルの指示に従って使用すること。そして使用場所において、連邦法、州法、地域条令に従って、合法的な製品のみ使用すること。**発芽後と開花前(3月から4月)に散布すること。周辺に望ましいイネ科植物が生えている場合はトリクロピルなどの広葉雑草用の局所的効果を持つ除草剤を利用すること。周辺の植物にそのような懸念のない場合は、局所効果のないグリホサート系の利用も可能。散布後、その場所にマルチを被せ、土中に残った種の発芽を抑制すること。薬品による防除方法は、個人、業者、行政、それぞれにとって異なる。詳細については、有害雑草防除プログラムにお問い合わせ下さい。

## 似ている植物：

ヒメフウロ[別名シオヤキソウ](*Geranium robertianum*) およびヤワゲフウロ (*Geranium molle*)。



ヒメフウロ



ヤワゲフウロ

ヒメフウロも同じような成長形態を持つが、その葉はよりレース状の形になっている。ヒメフウロはせん毛で覆われ、粘り気と強い不快臭を持つ(別名「臭いポブ」)。ヒメフウロもヨーロッパから侵入した有害雑草である。ヒメフウロはゼラニウム・ルキドゥムより広まっているため、キング郡では防除は義務付けられていない。

ヤワゲフウロの葉の形は、ゼラニウム・ルキドゥムの葉と似ているが、柔らかい毛で覆われている。ヤワゲフウロの花びらはギザギザになっているので、花弁が5枚ではなく10枚あるように見える。ヤワゲフウロは、芝生や道路沿いの地域でよく見られる雑草である。



種は先のとがった細長い「ツルのくちばし」のような鞘で育つ。



原種植物の育っている森や草原の生育環境に侵入し、圧倒することがある。



草刈機を使用しないこと。ゼラニウム・ルキドゥムを拡散させるだけの結果になる。



拡散を防ぐため、ゴミとして処分すること。